

# 大阪学芸中等教育学校 学問探求団 “RYS”

## episode 27 気になる学部に潜入！③観光学部

2013年10月4日 進路指導部



## Introduction

2学期中間考査最終日の10月4日の午後、我々学問探求団RYSは、和歌山大学観光学部に足を伸ばしました。和歌山大は学校からバスで1時間半ほどの距離に位置し、毎年何人もの先輩方が進学しています。教育学部、経済学部、システム工学部、そして観光学部からなる国公立の総合大学で、今回は最近注目度が増している観光学部に潜入しました。

先日の国際オリンピック委員会における日本のプレゼンテーションでは、見返りを求めない日本人のホスピタリティ精神の高さを表す「おもてなし」という日本語が紹介されました。和歌山大学観光学部では、経営学を基礎に、このホスピタリティとマーケティングの両方の視点を持ち、地域の特性に精通した観光ビジネスをプロデュースできる能力を備えた人材の育成を目指しています。



## いざ、大学の構内へ

今回は、和歌山大学出身の落合先生に引率していただき、バスの車中で大学の魅力やクラブ活動のことなどを話していただきました。団員達からも様々な質問が飛び出し、大学に対する期待が高まってきました。

大学に到着すると、会議室へ案内していただき、広報室の方から、大学や観光学部の紹介していただきました。また、学校案内に付き添っていただける現役の大学生の方を紹介していただきました。

その中で、団員から学生さんに対して、「なぜ観光学部への進学を志したのでしょうか。」という質問がでました。それに対して、「和歌山大学観光学部には、観光経営学科と地域再生学科があり、自分は地域再生学科で学んでいます。将来は出身地の長野県に戻って地域の町おこしを担うために、その理論と実学を学ぶために入学しました。」と答えていただきました。和歌山大学では、観光を経済・経営の視点だけではなく、地域再生の視点でも学ぶことができることがわかりました。

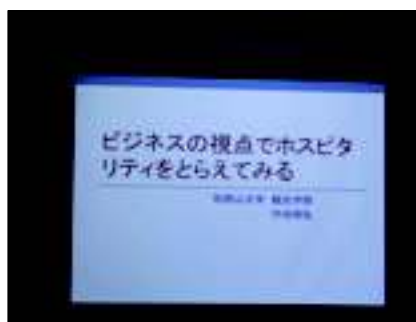


## 模擬講義を受講

大学紹介の後、観光学部の竹田明弘准教授による「ビジネスの視点でホスピタリティをとらえてみる」と題した模擬授業を受講しました。竹田先生はわかりやすくかつ、興味深い授業を展開されました。

まず先生は、「『観光』とは何かを厳密に定義することはできない」と言われました。例えば、仕事で大阪から東京に出張した帰りに、東京スカイツリーの展望台に上がっても「観光」だと言えるし、東大阪市から梅田に買い物に行った場合でも「観光」と言うことができます。つまり、観光したと思えばそうなるし、観光ではないと思えばそうではないのです。

日本は、海外へ出て行く旅行者が訪日数を大きく上回る「出国超過」が続いており、国際観光地としてアジアの中でも遅れています。未開拓な分だけ新たな成長可能性を秘めているとして本格的に取り組みだしたのが、2003年にスタートした「ビジット・ジャパン・キャンペーン」でした。政府・自治体と民間旅行会社や観光団体、交通機関などが一体となったこのキャンペーンは一定の成果を上げ、訪日外



国人旅行者数は2005年の521万2000人から2008年までに4年間で60.2%増と大きく伸びました。しかしリーマン・ショックによる世界同時不況の影響で2009年は679万人と前年比18.7%も落ち込み、東日本大震災の原発事故でその傾向はさらに顕著となっています。つまり、観光学の1つの課題が「外国からの観光客をどのようにして増やしていくか」ということなのです。

では、どうしたら観光客を増やすことができるのでしょうか。その鍵となるのが、「ホスピタリティ（お互い様の精神）」です。良いサービスを提供してくれるホテルや飲食店になら、お金を多く払ってもよいと考える人がいる反面、過剰なサービスを提供したならばお客さんは増える一方で経費がかさみ、経営的には限界があります。しかし、ホスピタリティを高めることは、お金がかかるわけではありません。ホスピタリティが高い状態とは、主人と客がお互い顔見知りで気の置けない間柄になり、心地良い人間関係が構築されている状態です。つまり、主客同一の関係となると、居心地がよく少しくらい高いお金を払ってもその店に通いたくなるのです。ホスピタリティを高めるとは、このようなお互い様の精神を持ち合った人間関係を構築していくということなのです。

例えば、ラーメン屋で食事をする時に、「友人のラーメン屋で550円」か、「他人のラーメン屋で500円」のどちらを選択するかを想定します。竹田先生が学生にアンケートをとると、10人中9人の学生が「友人のラーメン屋」を選択したというデータが出たそうです。つまり、友人の間ではホスピタリティが高まり、心地良い時間が過ごせるのでそのラーメン屋に通う率が高くなるということです。

この模擬授業でも、団員から質問が出てきました。それは、「店側と客がお互いをよく知らない場合はどのようにホスピタリティを高めていけばよいのでしょうか。」という疑問でした。竹田先生は、「店側としては、相手の気持ちをどのように開かせていくべきかを課題としています。しかし、それこそがホスピタリティの視点をマネジメント（経営）に生かす転換点なのです。」と答えていただきました。さらに、団員が「観光では、非日常的な雰囲気味わいたいので、そこでは多くのサービスを提供してもらいたいのが客の心情ではないのでしょうか。」と疑問を呈すると、竹田先生は「客のわがままを聞き続けて、過剰なサービスを提供し続けていくと、そのお店は潰れるしかありません。だからこそ、ホスピタリティの視点を経営に取り入れることが重要になってくるのです。」と答えていただきました。お金をかけたサービスの提供だけでは、ビジネスは成り立たないため、ホスピタリティをどのようにして生かしていくかが、これからの観光に欠かすことができない視点であることを団員たちは学びました。

## デジタルドームシアター・観光学部棟

模擬授業を終えた団員たちが次に向かったのが、観光学部棟で、地元産のひのきで建てられており、かつガラス張りの開放的な建築物となっていました。その学部棟に附属しているのが「デジタルドームシアター」で、観光学部の尾久土正己教授が投影・解説していただきました。和歌山大学観光デジタルドームシアターは、直径5mのドームスクリーンに、専用に設計された魚眼レンズを装着した4Kプロジェクターにより、実写を中心とした360度の映像（全天周映像）を投影し、体験できる施設です。このシアターに座れば、身近な紀伊半島から世界、そして宇宙まで、これまでにない臨場感で仮想体験することができます。





実際の投影では、地球を宇宙から見た映像や、樹木が伐採される映像、海中での鯨の親子の様子、東日本大震災後の被災地の様子などを見せていただきました。どの映像も、360度を見渡すことができ、非常に臨場感のあるバーチャル体験ができて団員達は驚きました。

その後、学内見学の途中で立ち寄った生協では、和歌山大学のグッズ販売コーナーがあり、和歌山大学のマスコットキャラクターの「わだにゃん」のぬいぐるみや文房具が置かれていた。また、「焼きたてパン工房」では、毎朝美味しいオリジナルパンが焼かれているそうで、学生にも好評であるとのことでした。



和歌山大学から見下ろした風景  
(右奥に淡路島が見える)

## 団員たちの感想

観光学の本質に迫ることができた。より理解を深めることができたとともに、今後の観光学におけるホスピタリティの重要性を確認した。(5年男子) / とってもたのしかった。観光学部ってどんなところか見当もつかなかったけど、地域再生とか、いろいろなことをするんだなーと思った。模擬授業の先生の話もおもしろくて、わかりやすかった。デジタルドームシアターでいろいろな角度からロケットの発射とかの映像が見られてよかった。(4年女子) / 地震の被害がすごく伝わった。デジタルドームシアターはすごい。(4年男子) / 観光学部棟が、「木」で建てられているのがよかった。(3年男子) / デジタルドームシアターに感動しました。(4年男子) / ひたすら楽しかった！模擬授業がすごくわかりやすくて、興味が出た。楽しそうです。(4年女子) / 観光と言っても、定義がはっきり決まっていない等、奥が深いなあと思いました。(4年男子) / デジタルドームシアターがよかったです。観光学部棟が木造建築で、良いにおいがした。(3年男子) / 観光学部は私にとって、とても魅力的な学部になりました。大学生ボランティアの先輩がお菓子をおごってくれました。ありがとうございました。(4年女子) / 観光のことがよくわかった。(4年男子) / デジタルドームシアターがすごかった。(3年男子) / 来てヨカッタ！和歌山大学最高！(3年男子) / 観光学にとっても興味がわいた。ホスピタリティについてもっと知りたくなった。デジタルドームシアターがよかったです。(5年男子) / 学生ボランティアの先輩が生協でおごってくれました。うれしかった。デジタルドームシアターの映像がすごくきれいでびっくりした。(4年女子)

## 最後に

団員たちは、短いあいだではありましたが、和歌山大学の模擬授業を受講し、デジタルドームシアターで仮想体験し、学内見学をして、非常に有意義な時間を過ごせたようでした。特に、ボランティアの大学生が優しく丁寧に付き添ってくれたことが、団員達にとって心やすかったようで、和歌山大学のRYSに前向きに取り組む気持ちを高めてくれました。

当然のことですが、観光学部は日本全国から観光を学ぼうという意欲が高い学生が集まっている学部であり、その魅力の一端を今回のRYSで体験できたことは、団員の満足度を大いに高めていたようです。大学広報室の小西さんいわく、下に示すように「公開体験学習会」が11月24日(日)に開かれる予定です。観光学部だけでなく、和歌山大学の他の学部も気になる人は、是非とも和歌山大学を訪ねてみてはどうでしょうか。

和歌山大学 公開体験学習会

2013 11.24 (日)  
10:00~17:00 (受付開始は10:30~開始は11:00)

和歌山大学  
和歌山キャンパス 330  
和歌山県和歌山市白旗1-1-1  
和歌山県立中央図書館 3F  
和歌山県立中央図書館 3F  
和歌山県立中央図書館 3F

参加無料

作ってビックリ

見てビックリ

2013

教育学部  
観光学部  
紀州経済史文化史研究所  
学生自主創造科学センター  
システム工学部  
デザイン情報学部